

034

編集者が出会った作家たち

遠藤周作の素顔とその文学

講座内容

講師は大学在学中に遠藤周作編集長の「三田文学」で編集者になり、卒業後は新潮社に入って、足掛け45年以上、多くの作家たちと仕事をしてきました。特に遠藤周作は文学上の師でもあり、最も身近に接してきた作家です。遠藤の代表作『沈黙』はノーベル文学賞の候補にもなり、現在世界20カ国で翻訳されている名作です。最近、『沈黙』はハリウッド映画にもなって世界配給されるなど、話題の尽きない作家です。講座では遠藤周作の素顔と彼の文学を、編集者ならではの視点から分かりやすく語ります。

期 間	7月19日	受講料	2,000円
曜 日	土曜日	定 員	30名
時 間	10:00~12:00	会 場	横浜・関内キャンパス
回 数	1回	持ち物	筆記用具
教 材	講師が資料を用意します。		

講座スケジュール

回数	日 程	内 容
1	7月19日(土)	遠藤文学における「悪」のテーマ 遠藤周作はいわれているような明るい人ではなかった。フランス留学中に「人間の悪」というテーマを見つけ、小説家になる決意をする。人間の悪を突き詰め、そこから信仰の問題を考えるというのがカトリック作家遠藤の原点だった。帰国後、戦国時代にカトリック文化が開いた長崎を見出し、隠れキリシタンの歴史を掘り起こし、そこから、名作『沈黙』が生まれることになった。

講師紹介



宮島 正洋(みやじま まさひろ)

元新潮社編集者 現アートデイズ編集長 「三田文学会」理事

1974年慶應義塾大学フランス文学科卒業。在学中より遠藤周作編集長の「三田文学」で編集者となり、卒業後新潮社に入社。その間、井伏鱒二、小林秀雄、大岡昇平、瀬戸内寂聴など戦後の大作家たちと出会う。新潮社を退社後、出版社アートデイズを設立し、代表取締役・編集長に就任。C・Wニコル著作権代理人、慶応大学出版会顧問、「三田文学会」理事などを務める。